

ご存知ですか？

東京2020パラリンピック競技大会への

筑豊地区の取り組み

田川市

田川市は、東京2020パラリンピック競技大会に出場する、ドイツ及びベラルーシの車いすフェンシングチームの



事前キャンプ地となる協定を結びました。

2018(平成30)年に「共生社会ホストタウン」に登録され、2019(令和元)年に全国で12件の「先導的共生社会ホストタウン※」に登録されました。

「共生社会ホストタウン」とは？

パラリンピアンとの交流をきっかけにユニバーサルデザインのまちづくり及び、心のバリアフリーの取り組みを実施することで共生社会の実現をめざしているんじゃないか！



お互いの違いを認め合う「福祉のまち たがわ」へ

※先導的共生社会ホストタウンとは
2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部が、共生社会ホストタウンに登録されている自治体のうち、先導的・先進的なユニバーサルデザインの街づくりと心のバリアフリーに取り組む自治体を登録するもの。(2019(令和元)年10月23日現在、全国で12件のみ)。

田川市の活動計画

- 車いす対応型トレーラーハウスでの合宿所の整備
- 市総合体育館のバリアフリー化
- 心のバリアフリー研修の定期開催
- 小学校などで障がい者スポーツ体験教室を開催
- 医療・福祉の専門大学「福岡県立大学」と連携
- バリアフリーマップの作成



地域の子どもの体験イベントも開催されているんじゃないか



JAPAN OPEN CUP 飯塚国際車いすテニス大会



毎年、飯塚市で開催されています。国内トップ選手はもちろん、世界中から選手が集まる国内最大級の国際車いすテニス大会です。また、毎回2,000名を超えるボランティアが運営の支援に当たっています。この運営方式は「イイツカ式」と呼ばれ、地域を挙げての取り組みは高く評価されています。過去には福智町でも開催されていました。

研修報告

1日目：5月27日(月) 「昭和電工ドーム大分」「大分県立武道スポーツセンター」(大分県大分市横尾1351)

大分県障がい者体育協会の担当者より、大分県の障がい者スポーツの歩みと「大分国際車いすマラソン」の概要についての説明を受けました。

その際に、車いすマラソン・パワーリフティング選手の城隆志さんのお話を直接お伺いし、実際に車いすマラソンで使用されるレース用車いすの試乗体験もさせていただきました。



城隆志選手



レース用車いすの試乗体験

その後、「大分県立武道スポーツセンター(令和元年5月11日竣工)」を見学しました。

車いす観覧席の設置や、車いすで利用できるシャワー室や多目的トイレ、エレベーターなどの設備が充実しており、障がい者を含むすべての人に配慮して建設されている素晴らしい施設でした。



大分県立武道スポーツセンター



車いす観覧席通路から体育館を一周でき、階段などの手すりには点字の案内があります



研修2日目は、5月28日(火)「社会福祉法人 太陽の家」(大分県別府市大字内蔵1393番2)(7、8ページ参照)